

# 大分県長期漁海況予報

〔令和4(2022)年8月～12月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部

879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

## 海況経過<令和4年4月～令和4年7月>

### ■黒潮

- ・都井岬沖では、3月は離岸傾向、4月～5月は接岸傾向、その後は概ね離岸傾向で推移しました。
- ・足摺岬沖では、3月上旬～4月中旬は「著しく離岸」、4月下旬～5月上旬に「やや離岸」、5月下旬には「接岸」、6月以降は「やや離岸」～「著しく離岸」で推移しました。
- ・A型流路(大蛇行)が継続しました。

### ■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、4月は「低め」、5月は「平年並」、6月は「やや低め」と、低め基調で推移しました。7月は「平年並」でした(図1)。

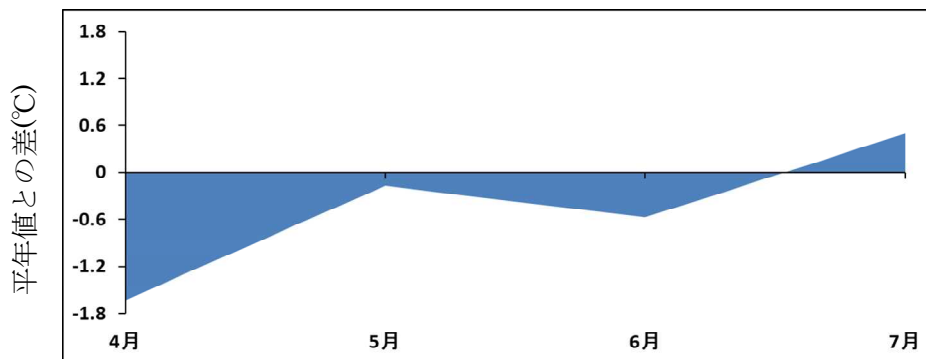


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

### ■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、4月は「低め」、5・6月は「やや低め」、7月は「平年並」と、低め基調で推移しました(図2)。

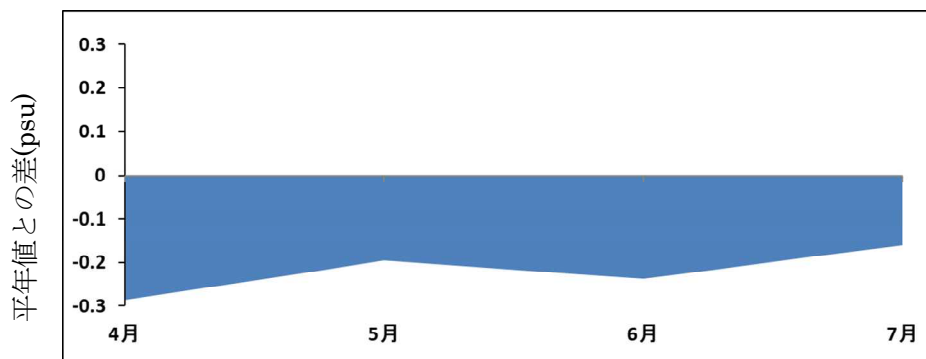


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

## 今後の海況の見通しく令和4年8月～12月

### ■黒潮

- ・都井岬では、9月までは接岸傾向で、その後は離岸傾向で推移するでしょう。足摺岬沖では、離岸傾向で推移するものの、一時的に接岸傾向となるでしょう。
- ・黒潮は、9月頃までA型基調で推移し、12月まで大蛇行が継続する可能性が高いでしょう。

### ■沿岸水温

沿岸水温は9月頃まで「平年並」～「高め」で推移し、その後は「低め」～「平年並」で推移するでしょう。

### ■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は、2022年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県:2022)を参考にしました。
- ・沿岸水温は、2022年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報と、福岡管区気象台の「九州北部地方3ヶ月予報」(令和4年7月19日発表)を参考にしました(沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられているため)。

8月 「低め20%、平年並30%、高め50%」

9月 「低め20%、平年並30%、高め50%」

10月 「低め20%、平年並40%、高め40%」

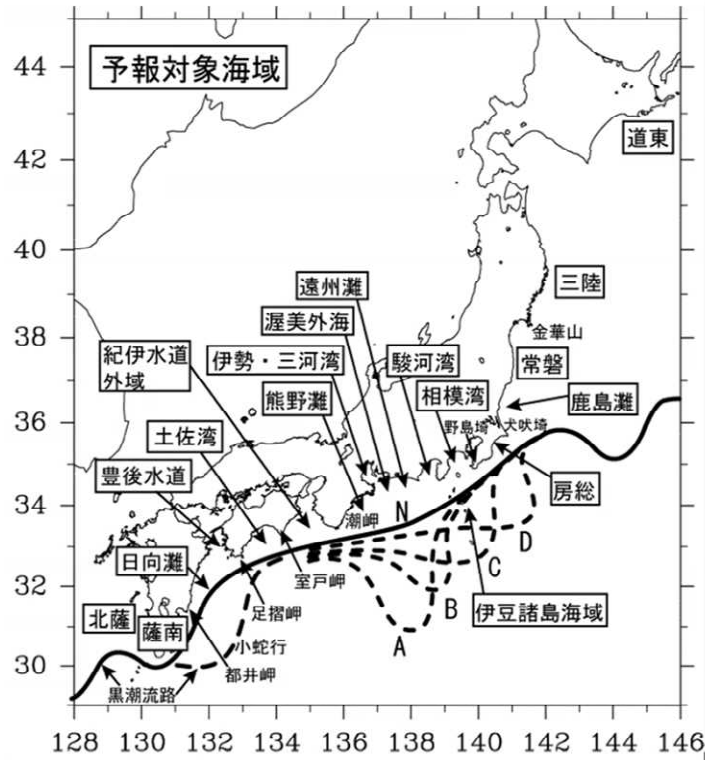


図3 黒潮流型の分類

※上図は太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報  
(水産研究・教育機構プレスリリース資料)より引用

## ■マイワシ

### □2022年4月～6月の漁況経過

2022年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの水揚量は1トンで、前年比0%、平年比0%(1986年～2021年の平年値)と、前年・平年を大きく下回りました。水揚の主体は2022年級群(0歳魚)であり、2021年級群(1歳魚)の個体も確認されました。

なお、**近隣海域**(用語解説①)では、宮崎県は前年の6%、愛媛県は前年の0%、高知県は前年の0%の水揚量となっています(宮崎県は1月～6月、愛媛県、高知県は4月～6月の前年比)。

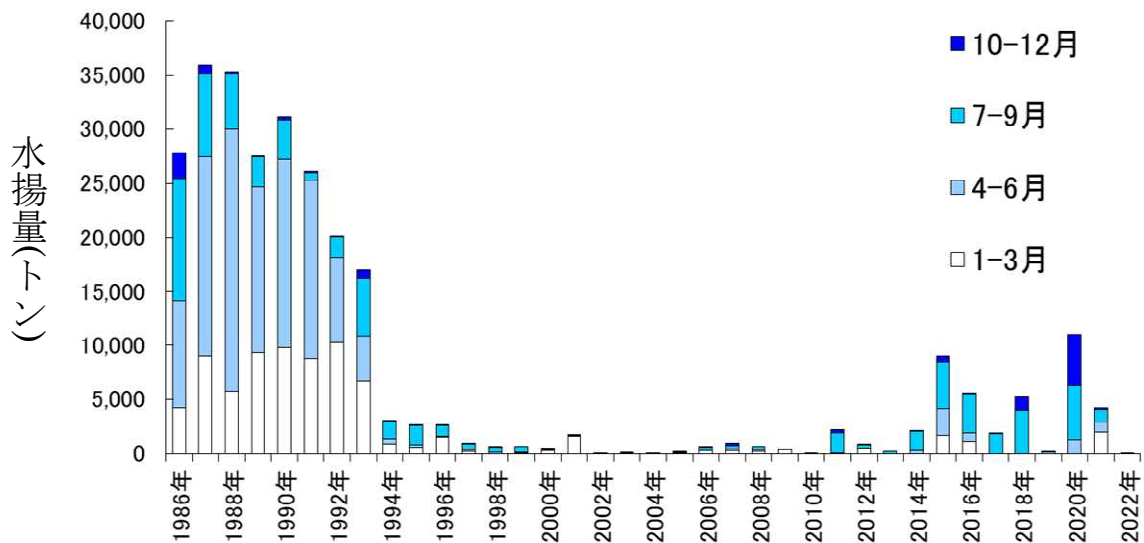


図4 まき網によるマイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2022年8月～12月>



### 来遊量:

豊後水道への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2021年8月～12月:544トン)

### 水揚対象年級群および体長:

8月～12月は被鱗体長12cm～18cmの0歳魚(2022年生まれ)が主体となるでしょう。

### 【説明】

予測期間中は2022年級群(0歳魚)が水揚の主体になるでしょう。近年、マイワシ資源は、沖合からの良好な加入により、千葉県以北などの東日本を中心に増加傾向にあります。黒潮大蛇行以前(N型流路)は、豊後水道沿岸加入群に加え、房総以北からの加入群も漁獲されていましたが、近年、黒潮の大蛇行が東方からの加入を阻んだことで減少傾向にあると予測しています。黒潮と反対方向に向かう沿岸流が強まることで、東方からマイワシが加入する可能性はありますが、期待は持てません。したがって、2022年8月～12月の来遊水準は前年を下回ると予測しました。

## ■カタクチイワシ(成魚)

### □2022年4月～6月の漁況経過

2022年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの水揚量は177.1トンで、前年比67%、平年比28%(1986年～2021年の平均値)と、前年・平年を下回りました。水揚の主体は、被鱗体長<sup>(用語解説②)</sup>6.0 cm～12.0 cm前後の2022年級群(0歳魚)と2021年級群(1歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の254%、愛媛県では前年の127%、高知県では前年の169%の水揚量となっています(宮崎県は1月～6月、愛媛県、高知県は4月～6月の前年比)。

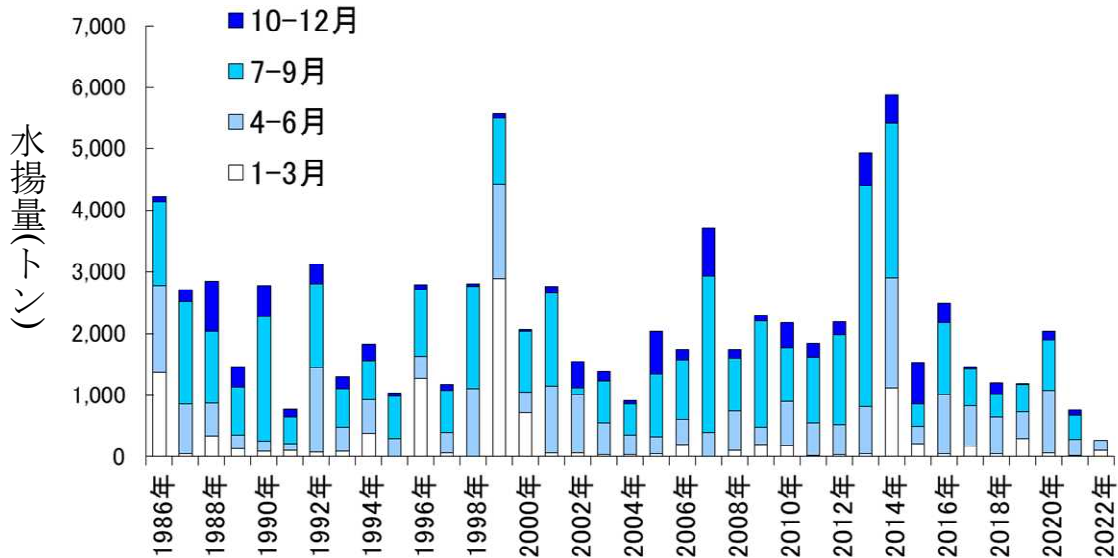


図5 まき網によるカタクチイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2022年8月～12月>



### 来遊量:

豊後水道への来遊量は、低水準であった前年並でしょう。(2021年8月～12月:216トン)

### 水揚対象年級群および体長:

8月～12月は被鱗体長10 cm前後の2022年級群(0歳魚)主体に2021年級群(1歳魚)が混じるでしょう。

### 【説明】

2022年級群(0歳魚)が水揚げの主体であった1月～6月の水揚量が前年並であることから(前年比92%)、8月～12月の来遊水準は低水準であった前年並と予測しました。

## ■ウルメイワシ

### □2022年4月～6月の漁況経過

2022年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの水揚量は4.9トンで、前年比 1%、平年比 2% (1986年～2021年の平均値)と、前年・平年を大きく下回りました。水揚の主体は被鱗体長<sup>(用語解説②)</sup>6.0 cm～12.0 cm前後の2022年級群(0歳魚)でした。

なお、宮崎県では前年の38%、愛媛県では前年の29%、高知県では前年の37%の水揚量となっています。(宮崎県は1月～6月、愛媛県、高知県は4月～6月の前年比)。

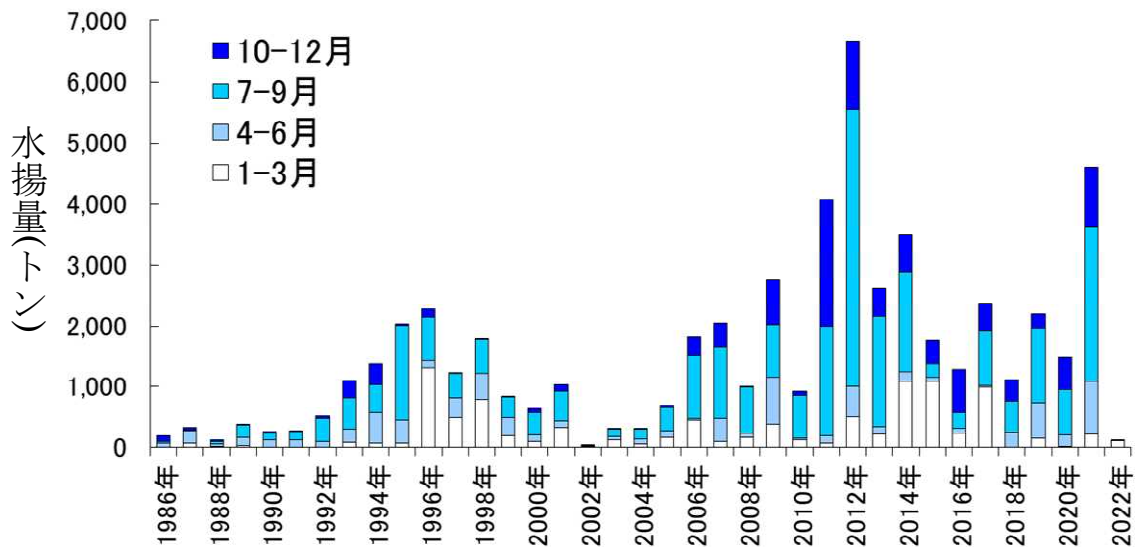


図6 まき網によるウルメイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2022年8月～12月>



### 来遊量:

豊後水道への来遊量は前年を下回るでしょう。(2021年8月～12月:2823トン)

### 水揚対象年級群および体長:

8月～12月は被鱗体長10 cm～20 cm前後の2021～2022年級群(0～1歳魚)主体となるでしょう。

### 【説明】

近隣海域における漁獲状況から来遊に期待が持てず、2021～2022年級群(0～1歳魚)が水揚の主体となる4月～6月のまき網水揚量が前年を大きく下回ったため、8月～12月の来遊水準は前年を下回ると予測しました。

## ■マアジ

### □2022年4月～6月の漁況経過

2022年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの水揚量は135トンで、前年比52%、平年比28%(1986年～2021年の平均値)と前年・平年を下回りました。水揚の主体は、5月は尾叉長<sup>(用語解説③)</sup>17 cm～36 cm前後の2021年級群(1歳魚)と、2019～2020年級群(2～3歳魚)であり、6月にはこれらに加え、尾叉長7 cm～14 cmの2022年級群(0歳魚)も出現しました。

なお、宮崎県では前年の64%、愛媛県では前年の111%、高知県では銘柄「あじ」が前年の57%で、銘柄「ぜんご」が前年の34%の水揚量となっています。(宮崎県、高知県は1～6月、愛媛県は4～6月の前年比)。

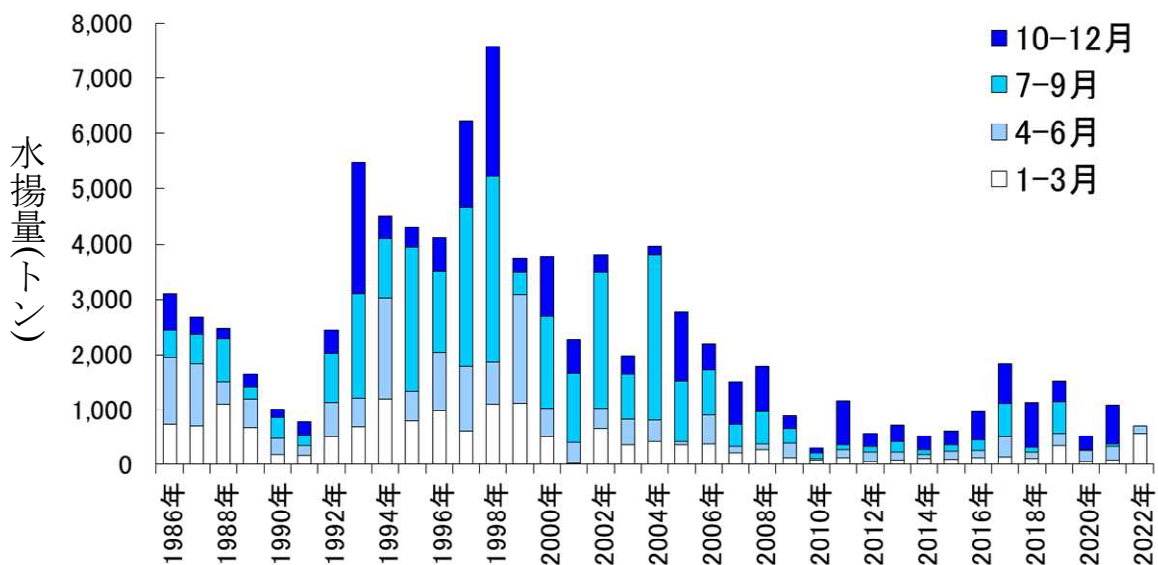


図8 まき網によるマアジの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2022年8月～12月>



### 来遊量:

豊後水道への来遊量は低水準であった前年並でしょう。(2021年8月～12月:760 トン)

### 水揚対象年級群及び体長:

尾叉長15 cm前後の2022年級群(0歳魚)が水揚の主体となるでしょう。

### 【説明】

1月～6月における豊後水道南部主要3港の水揚量は前年を上回りましたが、マアジ太平洋系群の資源動向は減少傾向と判断されており、加入量は2009年以降、低水準で推移しています。4月以降は低調な漁獲が続いていることから、来遊水準は、低水準であった前年並と予測しました。



## ■サバ類

### □2022年4月～6月の漁況経過

2022年4月～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の水揚量は153トンで、前年比48%、平年比13%(1986年～2021年の平均値)と、前年・平年を下回りました。水揚の主体は、5月は尾叉長<sup>(用語解説③)</sup>23 cm～30 cm前後の2019～2021年級群(1～3歳魚)と、尾叉長16 cm～21 cm前後の2022年級群(0歳魚)でした。6月は尾叉長10.5 cm～21 cmの2021年級群(0歳魚)が主体となりました。

なお、宮崎県では前年の30%、愛媛県では前年の100%、高知県では前年の32%の水揚量となっています。(宮崎県、高知県は1～6月、愛媛県は4～6月の前年比)。

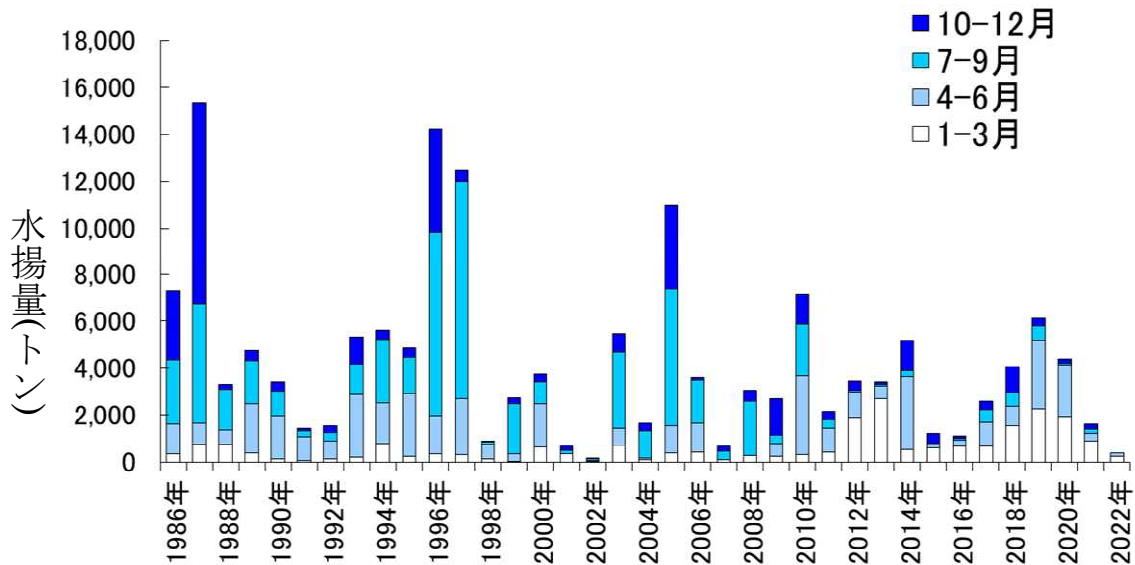


図9 まき網によるサバ類(マサバ・ゴマサバ)水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

## 今後の見通し<2022年8月～12月>



### 来遊量:

豊後水道への来遊量は、低水準であった前年を下回るでしょう。(2021年8～12月:270トン)

### 水揚対象年級群および体長:

これまで期間中は、ゴマサバ0～1歳魚が主体となっていましたが、2016年以降は月によってはマサバ0～1歳魚が主体となっており、今期も水揚げの主体となる可能性があります。

### 【説明】

これまで、期間中はゴマサバ0～1歳魚が主体となっていましたが、資源状態を考慮すると来遊に期待が持てません。予測期間中は2022年級群(0歳魚)が水揚の主体になるでしょう。近年、マサバ資源は、沖合からの良好な加入により、千葉県以北などの東日本を中心に増加傾向にあります。黒潮大蛇行以前(N型流路)は、豊後水道沿岸加入群に加え、房総以北からの加入群も漁獲されていましたが、近年、黒潮の大蛇行が東方からの加入を阻んだことで減少傾向にあると予測しています。黒潮と反対方向に向かう沿岸流が強まることで、東方からサバ類が加入する可能性はありますが、期待は持てません。したがって、2022年8月～12月の来遊水準は前年を下回ると予測しました。

## その他

### ■予測の根拠および参考資料

・予測は、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所および関係都道府県による、「2022年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類など長期漁海況予報会議」結果を基に、最新の情報を加味して行っております。

URL: <https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2022/index.html>

### ■用語解説

- ①近隣海域：ここでは3県（宮崎県・愛媛県・高知県）の海域とし、高知県の水揚量の前年比は、宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ②被鱗体長：体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ③尾叉長：体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

### ■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 資源増殖チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156